

かぜのこひろば

劇団風の子北海道作品



構成・中島 茜
作曲・岸 功
みかみかん
演出・なるみてるまさ

かぜのこひろば

劇団風の子 北海道



あなたのまちにも
かぜのこひろばを

「かぜのこひろば」は1982年、風の子の地方班第一号として発足したとき、初めて作った作品です。北海道から発信するならどんな作品がいいか考え、北海道の自然を表現したい、と試みた最初の表現です。

さかのぼること1950年、戦後の大きな社会変化の中で生まれた風の子は、「自分の目で物を見、自分の頭で考える子ども」ということを大切にしてきました。そこで、劇の素材を子ども達の身近なものにし、想像力を使って主体的に観ることのできる作品にしています。

2020年から続いた新型コロナウイルスによる影響は、風の子75年の歩みの中でも初めての出来事でした。毎日の公演が中止になり、子どもたちと出会えない日々が続きました。そんな中、「やっぱり子ども達に生の劇を見せるのは必要だ！」と、改めて学校の先生方や地域の方から声が寄せられるようになりました。大人がなんとか対策して子どもに見せようと、みんなで知恵を出し合い公演を作るようになりました。

そんな体験を経て、風の子北海道は、手とからだ、子どもに身近なものと楽器の表現に立ち返り、子どものいるところあちこちに「ひろば」を作りたいと、40年ぶりの再演です。

子どもたちから

ほくは、大きいありがみのくまと小さいくまが
でてきたから、おやこぐまとおもった。りすが、
くるみをひとりじめしたから、するいなあとおもつ
た。あきがきたころ、きつねのおかあさんがすこ
しだ大きくなつたきつねの子どもをあいだしたから、
ほくもそういうことを、おかあさんにされたらや
だなあとおもつた。ふゆになって、しかがでたから、
ほくは、かもしかだとおもつた。ほくはまた風の
子がみたいなあとおもつた。

小学校1年生より

僕は生まれて初めて、劇団というものを見ました。
どういうものをやるか、とても興味深く、見
ていました。最初の一語ですごいなと思いました。
次々とおもしろいものが出てきました。なかでも
一番おもしろかったのは「タングラム」という
ものです。いろいろな形で浦島太郎をしたのはす
ごいと思った。それと、道具を何も使わないでイソツ
ップの話をしたのもおもしろかったです。これから
も、もっとおもしろいものを他のみんなに、見せ
てあげて下さい。

中学校3年生より



札幌・小学校教諭

簡素な舞台から繰り出されるタングラム、折り紙
でつづる四季、動きや語りを中心に、人間の体その
もので表現する方法。私が思っていた「劇」という
ものの予想を覆される作品でした。テレビと違い、
子ども達と双方向のやり取りのある時間。低学年の
子どもは引き込まれ、高学年の子どもは、劇の概念
の広がりに、新しい認識を持ったようです。子ども
達は、すぐに風の子の表現を自分のものにしようと、
手を使っての表現遊び、様々な活動が遊びの中
に現れたのには、子どもの感覚の鋭さと風の子の影
響の強さに驚かされます。分業的な劇の作り方だけ
ではなく、いろいろな役割を互いにこなしながら進
めて行く劇、開かれた舞台裏に子ども達の興味は深
まり、劇発表への期待、意欲を持ったことは間違い
ありません。

先生から



劇団 風の子 北海道

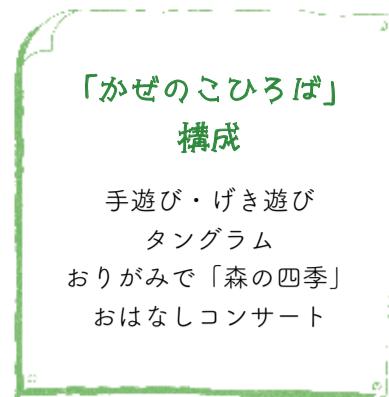
e-mail kazenoko-hokkaido@remus.dti.ne.jp

〒001-0027 札幌市北区北27条西11丁目5-7
TEL 011-726-3619 FAX 011-726-0303

HP <https://www.kazenoko-hokkaido.com/>



風の子の仲間たちは全国に拠点を持っています
劇団風の子（東京都）
劇団風の子関西（京都）・劇団風の子九州（福岡）
劇団風の子東北（福島）・劇団風の子中部（岐阜）



「かぜのこひろば」

構成

手遊び・げき遊び
タンграм
おりがみで「森の四季」
おはなしコンサート

手が動いたら、次は身体を使つてげきあそび。イソップ物語の中から「キツネの演説」を、衣装も大道具も使わずにやつてみます。ぬいぐるみやお面をつけてなくとも、キツネやおおかみに見えるかな? 大道具がなくて森や林が見えるかな?

すげき 素劇

最初は手遊び。遊ぶにも学ぶにも、仕事をするにも、まず手をよく動かしてから。みんな一緒に手を動かしたり手で遊んでみようよ。あんがい動かなくてびっくりしたり、ゆかいな形ができるたりするよ。

てあそび

みなさんのところへ、風の子北海道の仲間たちがやって来ます。木のオルゴールにビー玉を入れると・・・コロン、コロリン、コロリン、ふしきな音がうまれます。さあさあ、かぜのこひろばが始まるよ!



おりがみの詩 森の四季

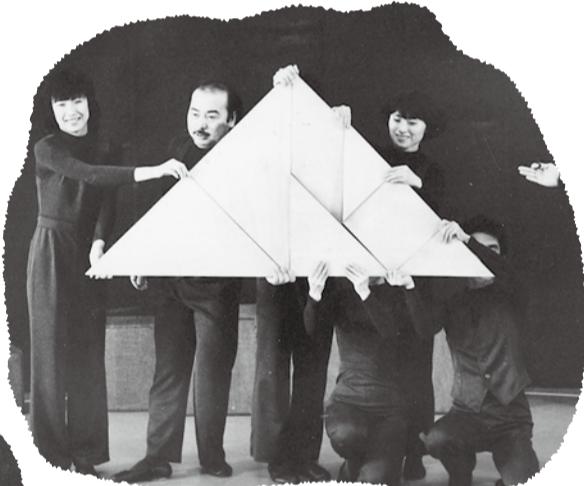
折り紙を折るのも面白いけど、できた折り紙を動かして見るのも楽しいよ。

春を迎えて喜びにあふれる動物の子どもたち、短い夏をせいいっぱい飛び回り、秋の実りをいっぱいたくわえて、厳しい冬を迎える北国の動物たち。折り紙で動物たちをいっぱい折って、北海道にすむ動物たちの四季を表現してみました。

かぜのこひろば

劇団風の子北海道公演

構成・中島 茜
作曲・岸 みかみかん
演出・なるみてるまさ



おはなしコンサート

バイオリン、ビオラ、チェロ、リコーダー、フルート、クラリネット、アコーディオン、ギター、ティンパニー、鉄琴、木琴などなど、いろんな楽器のいろんな音が合わさって、お話の世界が広がります。レパートリーの中から2~3つのお話を届けます。



『もじゅもじゅぼうや』(ビオラ語り)

顔を洗うのも手を洗うのも大嫌いなもじゅもじゅぼうや。ある朝、ぼうやのシャツやズボンが逃げ出した。急いで追いかけると今度は、ほうきやモップがぼうやを追いかける!スピード感いっぱいの元気なお話。

『大砲ドドン』(ギター語り)

ガマガエルの王様が、「となりの国をやっつけろ! 大砲をぶっぱなせ!」とひどい命令を出しました。けらいのアマガエルたちは困った、困った。みんなで知恵をしづって、うかんだ、いい考え。おかげで隣の国のカエルたちは大喜び。さてさてどんな考え方かな。



- 『もじゅもじゅぼうや』(ビオラ語り)
- 『おじさんのかさ』(チェロ語り)
- 『コオロギ』(ウクレレ語り)
- 『大砲ドドン』(ギター語り)
- 『きりなしばなし』(バイオリン語り)
- など

『みんなのひろば』 ~生きるってすばらしい!~

制作 植村直己

私は子ども時代、日常の中でいつもワクワクドキドキすることが必要でした。今の子ども達も、いつもワクワクドキドキの種を探していると思います。そして子どもは「あそび」を通して「人」と出会っている、と思います。

「人って楽しい!」「人って面白い!」この人間(子ども)が放つエネルギーこそ、人間が社会的動物と言われる根源であり、人間の暮らしを豊かにしていくものだと私は思います。

今回の劇表現は、このニンゲンエネルギーの魅力を徹底的に追及した作品です。

好奇心の塊のような子ども達と、大人たちがつながる場所が学校だったり地域だったりするのだとしたら、その場所にひろばをつくりたい!

子どもと大人の天然発光でピカピカ光る「かぜのこひろば」と一緒に作りましょう!